

平成17年度 いいたてホーム医務室事業報告書

1. 年間業務計画

1) ご利用者及び職員の健康管理

健康診断について	・検診率100% (年2回)
職員の自己管理について	・胃腸障害や発熱など体調不良者が多く見受けられた。
食への意識改革について	・単に栄養が摂取できればよいというものではないことから検討を要す。 ・身体にやさしい物・消化吸収まで考えた内容には及ばなかった。 ・水分補給の見直しについては、補正水を取り入れたことで意識の向上に繋がった。
健康教育について	・なんでも勉強会の定期開催によって関心を深めていった。 (経管栄養、口腔ケア、腰痛についてなど年11回開催)
受診について	・介護側と連携をとり、定期通院については看護職員の付き添いなしで可能となった。(通院状況：別表1、入院状況：別表2) ・重症度の高いご利用者又は終末期に瀕している状況があるなかでは止むを得ないと思われる。

2) 感染症対策

感染症対策委員会について	・各部署から委員を選出してもらっているが、活動的ではなかった。 ・委員会の召集は4回、会報の発行は3回であった。 ・関心を高める工夫が必要
インフルエンザワクチンの接種	・ご利用者・職員それぞれ初回接種のみ行う。追加接種については各自とした。

3) 褥瘡対策

委員会の設置について	・介護側を主に、看護側はサポートとして活動。 ・立ち上げたばかりではあるが、次第に関心も深まっていった。 ・実際にM. Aさんの褥瘡が完治したことも背景にはあった。 ・各家から委員が臨むことについても前向きにより刺激を共有できた。
------------	--

4) 終末ケア

看取りについて	・その時々注目すべき人に皆で関わることができた。 ・点滴や吸引など、不可欠かつ慣れないことに躊躇せず取り組むスタッフに頭の下がる思いである。(例：別紙)
---------	---

5) 緊急時の対応

・これについては定期的な勉強会を開催し、繰り返し修練する以外手段がないと思われる。
・次年度への課題にすべき項目である。

(別表1)

《通院状況》

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
--	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----	----	----

男	5	7	6	4	5	5	5	4	3	2	4	3	53	36.6%
女	3	8	15	5	7	12	6	8	5	6	8	9	92	63.4%
計	8	15	21	9	12	17	11	12	8	8	12	12	145	
定期通院	4	4	13	6	3	9	6	8	7	8	6	8	82	56.6%
臨時通院	4	11	8	3	9	8	5	4	1	0	6	4	63	43.4%

(別表2)

《入院状況》

(実：実人員、日：日数)

病院	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計		比率		
	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日			
市立	1	14			1	25	1	31	1	24	1	22											1	9	6	125	12.0%		
小野田			1	13													1	13	1	14	2	33	2	54	7	127	12.2%		
渡辺									1	28	1	30			2	18	2	49							1	1	7	126	12.1%
北福島	1	7	1	30																						2	37	3.6%	
医大											1	14	1	21												2	35	3.4%	
大町	2	26	4	95	3	47	1	30	1	10	3	47	2	89	2	71	1	31	1	31	2	30	2	51	24	558	53.8%		
大泉																	1	5	1	25						2	30	2.9%	
合計	4	47	6	138	4	72	2	61	3	62	6	113	3	110	4	89	5	98	3	70	4	63	6	115	50	1,038	100%		
2.8人/日																													

(別紙)

《終末内容とその経過》

ひだまりの家 Iさん (享年97歳)

病名：認知症

経過：平成16年4月16日 在宅から入居となる。

平成17年4月に発熱があり受診。施設内にて暫く点滴を施され軽快。

その後大きな症状も呈さず通常の生活を送られていたが、10月8日 未明に永眠される。

なごみの家 Kさん (享年82歳)

病名：脳梗塞後遺症・狭心症・高血圧症

経過：平成15年12月27日 佐藤病院からの入居。

嚥下ではあったが、信頼関係が深まりご家族からの期待にも添えるべく最期まで施設で過ごすことができたケース。

点滴に頼ることも多かったが、スタッフが一丸となり終末ケアに挑んだ。

平成17年10月25日 吸引・酸素吸入も効なく、搬送先の済生会病院にて永眠される。

くつろぎの家 Mさん (享年91歳)

病名：脳梗塞後遺症・大腿骨骨折

経過：平成16年4月22日 在宅からの入居。

入居前、一時は胃瘻造設された経緯もあり、ベッド上の生活を余儀なくされていた。

ADLの拡大も順調に進み経口摂取可能と判断され、6月10日にはチューブの抜去が施された。

平成17年11月30日 急変。脳内出血にて渡辺病院入院。12月18日に永眠される。

くつろぎの家 Mさん (享年80歳)

病名：静脈血栓症・脳梗塞後遺症・褥瘡・糖尿病

経過：平成16年4月12日 大町病院療養型からの入居

殆ど寝たきりであったが、次第に身体機能もレベルアップされて行った。

平成17年6月6日、左下肢に静脈血栓を発症。8月24日に退院され、元の生活に戻られるが12月19日夜間に呼吸状態悪化し永眠される。

ほほえみの家 Sさん (享年84歳)

病名：脳梗塞後遺症・慢性硬膜血腫

経過：平成12年4月11日 ヨッシーランドから夫婦での入居

脳梗塞の再発作や痙攣の重積発作を起こし、渡辺病院に入退院を繰り返していた。

平成15年8月から経管栄養となる。時々見せる反応のよさに期待し、経鼻を介しての注入に違和感があり11月14日に発熱治療と胃瘻造設目的にて入院

一時は退院の予定が立ったが、急変し12月31日に永眠される。

なごみの家 Mさん (享年93歳)

病名：認知症・閉塞性動脈硬化症

経過：平成13年12月20日 在宅からの入居

特に大きな病気の既往はなし。認知症による徘徊などの問題行動著明にて施設を希望
食事時のむせりがひどくなり、平成17年3月から経管栄養を余儀なくされる。

春以降は痰の分泌が多くなり、足の指には壊死がみられるようになる。

褥瘡もできることなく、最期は点滴を施されつつ静かに永眠される。